

発達課題を持つ子供への支援

～学校の現状とその価値～ (研修報告) 令和6年(2024年) 8月28日

●生徒指導と不適応行動への対応● NO.88

子どもの状態に応じた言葉がけ：子どもの状態をよく見立てることが大切。
どうしたら「見立て」ができるのか？⇒何に困っているのか、何が必要なのか。

発達のかたよりや遅れについて

皆、それぞれの味を持っている。診断名は、その子の一部であって、全部ではない。
見方を変えてみる。 Ex.→パワフル こだわり→職人気質 など

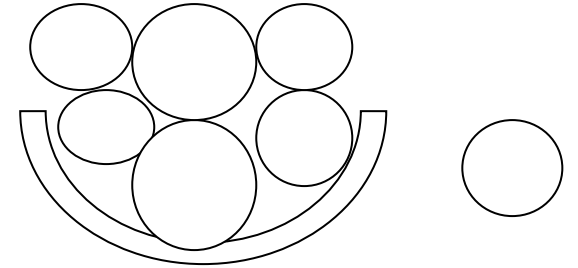
具体的な手立て:応用行動分析

望ましくない行動に注目されると、その行動は増える。
望ましい行動で注目される = 褒める・感謝する・認める・驚く 即その時
望ましくない減らしたい行動 = 教育的無視
(良い行動が出るのを待つ・声かけは1, 2回)
許しがたい行動 = ペナルティ (完全無視・個室で独全く無視される状態)
※落ち着いている時に、やり方を予告しておく
クラスの子どもたちにも説明し、理解してもらう

不適応行動には必ず理由がある。不適応行動=発達障害という安易な考えではなく、
子どもがどんな気持ちなのか、困っている理由に目を向ける。
不適応行動の少ないクラスは「失敗しても大丈夫、間違いから学ぶ」雰囲気がある。

●不登校対応●

背景を見立てること 要因はいろいろ



行動の背景にあるもの

不安 → 逃げる・固まる・戦う

不安から逃げてひとまず安心しても、次の場面が来て増々不安になることも。
相手の気持ちに気づいている人からの「伴走しようか」に対して「お願いします」
うわべだけ見ている人なら「伴走しようか」に対して「しんどいから嫌です」

登校刺激の強度の確認

会えない場合、拒否感が強い場合は、まずは電話で確認。

- ①親とだけ会う (自分に害がない)
- ②決まった曜日の決まった時間に訪問
- ③お土産なしで帰る (「行事来る?」「プリントしてみる?」はなし)
- ④刺激の強度を後で確認

何事も少しずつ スモールステップ

少しできると、もっとと思ってしまうが、「もうやめとくか」というのがコツ。
三歩進んで、二歩下がる。大きな岩を動かすには、時間がかかる。

敵ではないことを認識させる。会話を楽しむ。保護者支援。

「来い来い」看板を下ろす

「教室上がる?」「明日も来いよ」→来なくなる 「どういふか」より「誰が言うか」
「無理してない?」断ってもいいオーラをだす。
子どもの状態に応じた言葉を。